

Be-News

別府大学のアツい想いをスクープ



別府大学
別府大学短期大学部

NO.129
2024 AUTUMN

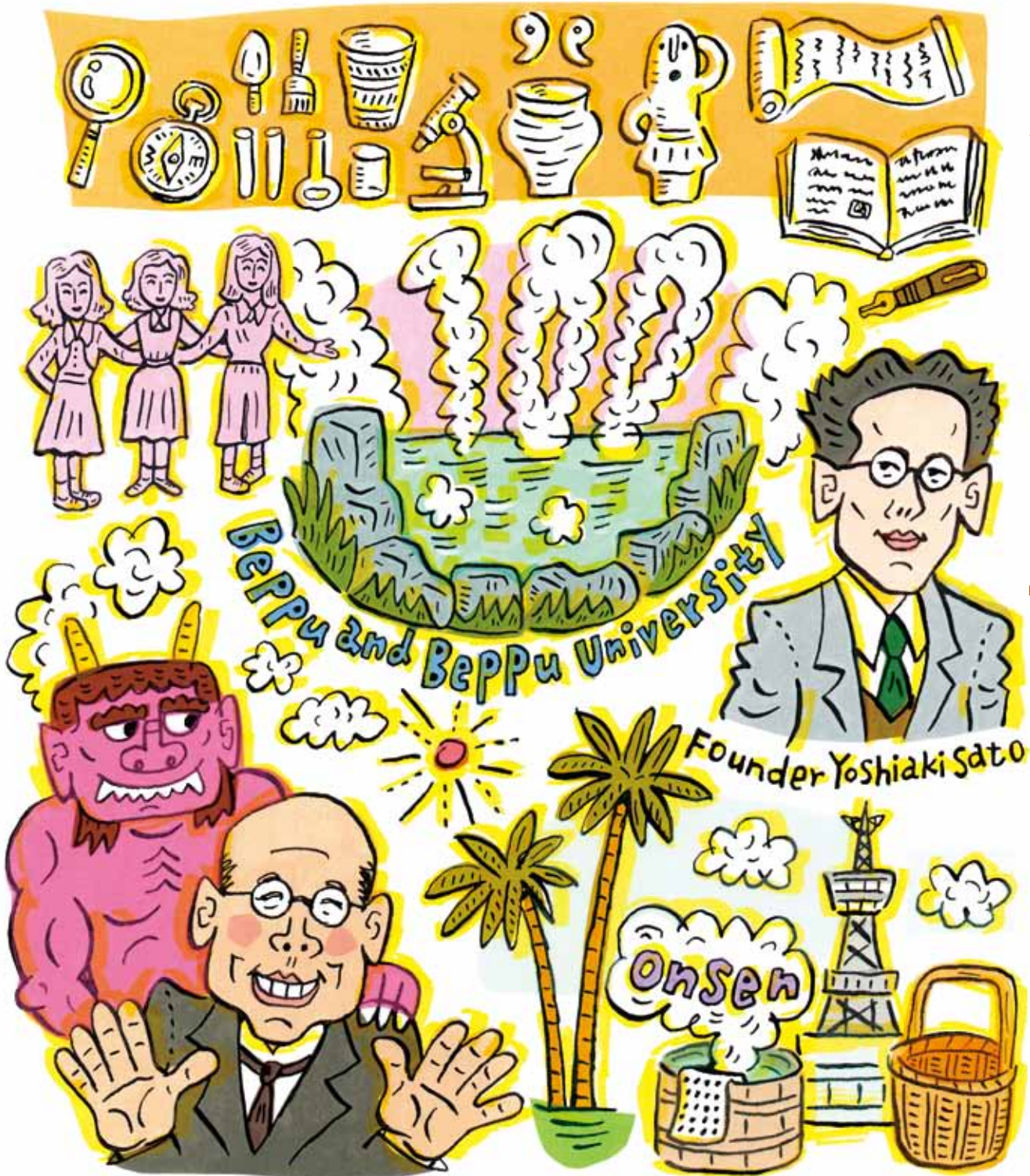
Beppu University, Beppu University Junior College Magazine

特集

別府市制100周年応援企画

べっふと

別府大学



クローズアップ別大生
研究室訪問 学びのトピラ
国際交流
地域連携

別

府

別府市制100周年応援企画

べっふと 別府大学

別府市は1924年に誕生し、2024年4月1日に市制100周年を迎えました。そして、別府市の誕生から22年後の1946年に、別府大学の前身である別府女子専門学校が開学しました。それ以来5万人近い学生が、別府を学び舎として、たくさんのお出合いを重ねてきました。別府市の100歳の歩みの中で、別府大学とのつながりを探してみましょう。

BEPPU AND BEPPU UNIVERSITY

別府市制100周年を応援!

秋の

イベント紹介

2024
11/9

SDGsから考える「地熱発電発祥の地」活用事業
～100年前の歴史遺産を地域活性化に活かせるか～

土 13:00～15:00

会場 別府大学メディア教育・研究センター4Fメディアホール

脱炭素社会移行への有力手段として注目される地熱エネルギー。日本における発電に向けての実験は1925年(大正14年)、別府市で初めて成功しました。近年、噴気孔跡も見つかり、地熱発電発祥から100年が経過するのを機に、貴重な歴史遺産の詳細を明らかにできるかどうか、今後これを地域活性化に活かせるかについて討議します。

基調講演

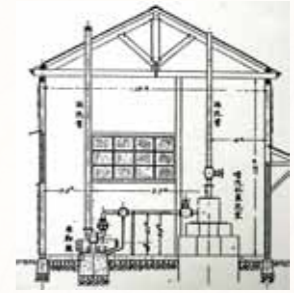
「地熱発電発祥の地についての経緯」
国際経営学科教授 阿部博光

「地熱発電発祥の地に対する想い」
NPO法人別府八湯トラスト代表 菅健一氏

「SDGs、地域活性化に活かせるか」
大分朝日放送 大久保千夏氏

パネルディスカッション

「100年の歴史遺産をどう活かすか?」



出所:「地熱発電ノ研究」



2024
12/7

九州学シンポジウム「別府市の新たなる未来を探る」

土 13:00～16:10

会場 別府大学32号館400番教室

公開授業「九州学」は2015年9月から実施し、今年で10回目を迎えます。学内外から講師を招き、九州という新しい見方を学んできました。10年の区切りで終了となり、来年度から授業を衣替えします。10回目のシンポジウムは、市制100周年にあわせ、別府の未来を学生たちと探ります。

基調講演

「新しい別府市誌の挑戦」
別府大学名誉教授 飯沼賢司

「市制100年を迎えて」
別府市長 長野恭純

パネルディスカッション

学生と語る別府の未来



九州学

Be-News no.129 CONTENTS

- 3 特集
べっふと別府大学
- 9 歴史と想いを紡ぐ
石垣祭から線垣祭へ
- 10 学科からのトピックス
菅原みなみさん
(文学部 国際言語・文化学科
英語英米文学コース3年生)
伊東蒼生さん
(短期大学部 初等教育科2年生)
- 14 クローズアップ別大生
- 16 研究室訪問 学びのトピラ
食物栄養科学部 発酵食品学科 教授 陶山明子
- 17 サークル紹介
モルック愛好会
B V N G O レトロ散策会
- 18 卒業生インタビュー こんにちは先輩!!
道下裕太さん
川野未来子さん
- 20 国際交流
- 21 地域連携
- 22 学園事業報告書
- 23 インフォメーション

どっしりして 別府 に 大学を?



別府大学創設者 佐藤義詮

別府大学のルーツは、戦前、大分市にあった豊州女学校です。戦後に別府へ学校を作った想いは、どのようなものだったのでしょうか。資料や大学関係者の証言から考えてみました。

地方都市・別府で リベラル・アーツ教育を

別府大学にはふたつの誕生日があります。ひとつは、大分市に生まれた豊州女学校開校日の明治41年(1908)年4月12日。もうひとつは、大分県で初めての私立大学である別府女子大学の設置が認可された昭和25(1950)年3月14日です。

さらに踏み込めば、別府女学院(別府女子専門学校)が開校した昭和21(1946)年5月、本校が「別府の教育機関」として誕生した月といえます。

別府大学開学の背景には、建学の精神「真理はわれらを自由にす

る(VERTAS LIBERAT)』を掲げ、地方都市別府で自由主義教育を実現することに生涯を捧げた佐藤義詮先生の姿が浮かびあがってきます。

別府大学の挑戦の歴史を、あらためて紐解いてみましょう。

佐藤先生の夢の起点は 文化学院にあった

明治39(1906)年、現在の大分市野津原の庄屋に生まれた佐藤先生は、昭和元(1926)年に旧制竹田中学から東京の文化学院大学部へ進学します。先進的な文化人として知られていた西村伊作氏が創設した同校は、自由で独創的な教育を実践し、与謝野鉄

親交の深かったカトリック大分教会のマリオ・マレガ神父による授業も取り入れるなど、西村伊作氏の考えを引き継いだ教育理念を忘れることはありませんでした。

大きな転機となった 別府女学院の設置

終戦後、佐藤先生は焼け野が原となった大分市で理想の教育ができるものかと、途方に暮れていました。ところが戦中に閉園を余儀なくされていた別府のレジャー施設鶴見園(現在のトキハインダストリー・鶴見園店一帯)で、豊州高等女学校の専門部を母体にする別府女学院の設置を持ちかけられました。どうやらマレガ神父から紹介された別府の進駐軍を指揮する軍政府長官だったヴィンセント・



希望に夢を膨らませた別府女学院の開校式

別府で花開いた 建学の精神

別府市北石垣に開学した別府女子大学の経営は、当初は順調ではありませんでした。森と田園に囲まれ、文学部のみ小さな校舎は、教育環境も十分とはいえないものでした。

それでも高いレベルの講義内容は維持され、佐藤先生の信念に共感した優秀な先生たちも次々と集まってきました。何よりも学生たちに活気があふれ、まさにリベ

エスポジット氏が、佐藤先生を案じ、鶴見園での再開を後押しをしてくれたようなのです。

おかげで翌年5月に鶴見園に開学できたのも束の間、今度は同地が進駐軍に接収される事態になってしまいました。既に東京のGHQに戻っていたエスポジット氏ですが、この話を聞き、かつて南満洲鉄道の子会社の保養所があった現在の場所を手配してくれたのです。

エスポジット氏と佐藤先生は、ウイスキーを酌み交わしながら、別府に文化学院のような学校をつくる夢を語り合う仲でした。昭和22(1947)年の別府女学院から別府女子専門学校への認可、そして昭和25(1950)年の別府女子大学認可への道も、エスポジット氏による陰ながらの支えがあったのではないかと思います。



校内の林を背景に、笑顔で腕を組む学生たち

おらかな別府の街に 育てられた理想の大学

振り返ると、別府にまったく縁のない佐藤義詮先生、マレガ神父、エスポジット氏の出会いがあったからこそ、現在の別府大学が存在しています。

もともと油屋熊八をはじめ、別府は際立った個性のある人物を引き寄せる磁場があり、それを受け入れる懐の深さと、夢の増幅を後押しする不思議なエネルギーがある土地ではないかと思えます。市制100年を迎え、未来にどんな才能を産み出していくのか。別府大学も、少なからず力添えができればと考えています。

あゆみと 別府大学

1924

- 1924年 別府市制施行
- 1925年 鶴見園遊園地開設
- 1928年 地獄めぐり遊覧バス開設
- 1929年 ケーブルカー
- 1929年 (現別府ラクテンチ)完成

JRの駅名に大学名が命名されることは珍しい

- 1937年 別府国際温泉
- 1941年 観光大博覧会開催
- 1945年 太平洋戦争勃発
- 1946年 8月第二次世界大戦終結
- 1950年 別府女子大学設置
- 1954年 別府大学に改称して共学へ短期大学部設置



- 1957年 鬼ノ岩屋2基が国の史跡に指定
- 1962年 別府ロープウェイ開通
- 1964年 九州横断道路(やまなみハイウェイ)開通
- 1966年 関西汽船が国際観光港に移転
- 1973年 市制50周年記念式典
- 1985年 市役所移転、新庁舎開庁
- 1987年 別府大学駅開業
- 1987年 オリアナ号オープン
- 1995年 市民ホール
- 1995年 (ビーコンプラザ)完成 国際交流会館完成

船上を文化会サークル歓迎会「さつき祭」の会場として利用した年もあります

- 2000年 立命館アジア太平洋大学開学
- 2002年 2002 FIFA ワールドカップサッカー開催
- 2008年 学校法人別府大学100周年記念式典開催
- 2008年 チャレンジ! おおいた国体(第63回国民体育大会)開催
- 2011年 別府・阪神航路開設100周年
- 2012年 「別府の湯けむり・温泉地景観」が国の重要な文化的景観(文化財)に選定
- 2016年 熊本地震発生 別府市で最大震度6弱を観測
- 2017年 別府ラクテンチで「湯ヶ園地」開催
- 2017年 鬼ノ岩屋・実相寺古墳群が国指定史跡に指定
- 2019年 「市民・学生大同窓会」開催
- 2019年 「ラクビーワールドカップ2019」大分開催
- 2020年 国内ではじめてコロナウイルス感染者が確認される
- 2020年 別府市、別府市商工会議所、別府大学で「湯のまちへっぴり協働推進協定」締結 記念式典開催
- 2021年 東京2020オリンピック・パラリンピック開催
- 2024年 別府市制施行100周年記念式典開催

2024

- ウェールズ代表チームが本学武道場にて剣道を体験
- 大学近隣にある県内最大の古墳群。史学・文化財学科では長らく古墳の調査を行ってきた
- ビーコンプラザで100周年記念式典を挙げる



05 Be-News



国際観光温泉文化都市・別府の持続可能で活力ある発展を目指し、三者で密接に協働していくことを目的に締結しました



別府大学フロアで来場者をおもてなし



学生ボランティアが参加!!



NHK「21世紀に残したい日本の風景」で2位に選ばれたことを機に選定へ。湯けむり景観保護には本学の段上達雄名誉教授が携わる



鶴見園の建物が校舎になる予定でしたが、開設後進駐軍により接収され、現在地へ移る

盛り上げ PROJECT 03

100周年を祝い「ちびっこふうせんランタン」を展示

2024年4月7日(日)に、別府市制100周年の記念式典がビーコンプラザで開催され、その会場入り口に、ふうせんランタンで「祝・100」の文字を描いた装飾が展示されました。ふうせんランタンは、市内の中学生や支援学校の生徒が、和紙で下地となる球を作り、市内の保育園・幼稚園の園児にバトンが渡され、和紙の球が

色紙や絵の具で色付けされました。総勢約3,000人の生徒・園児が参加し制作された約1,600個の球が別府大学に集められ、本学の学生がランプをつけて仕上げをしました。式典当日、会場に飾られたふうせんランタンは、やわらかな光を灯し、別府市の100年目の門出を飾りました。

ビーコンプラザで晴れ舞台を待つランタンたち



それぞれのランタンに子どもたちの個性が光ります

一つひとつ丁寧にランタンを仕上げています

今回は、1,600個のランタンを別府市内の中学生と、4~5歳の幼児さんに共同制作してもらうという大掛かりな取り組みでした。最後の仕上げを(ランタンを付ける)別大生が協力してくれました。式典会場を飾ったランタンの装飾は、圧巻というしかない感動的な展示になりました。本当にありがとうございました。



ちびっこふうせんランタンプロジェクト 梅本 弥生 さん

盛り上げ PROJECT 01

千人の子どもたちと別府ばやしを踊りたい!!

かつて別府で親しまれていた「別府ばやし」。地区の盆踊りや小学校の運動会などで踊られていましたが、近年は踊り手の高齢化などにより、市内でも踊る機会がほとんどなくなっています。そこで記念すべき市制100年と第110回目を迎えた「別府八湯温泉まつり」で「別府ばやし」を復活させ、子どもたちに受け継いでいこうと、市民有志が「別府

ばやしを踊り隊」を結成しました。別府大学生もサポーターで参加し、事前の練習や竹バチ作りを手伝いました。当日は、約1,300名の子どもたちが集まり、自分たちで作った竹バチを打ち鳴らしながら「別府ばやし」を披露。学生サポーターも踊りの輪に入り、子どもたちと踊りを楽しみました。



会場のスピーカーに竹バチの音が鳴り響きました

子どもたちと一緒に学生メンバーも楽しみました



竹バチづくりもサポートしました

今回学生のみなさんには、竹バチ作成からご尽力をいただきました。子ども達への対応が常に笑顔で優しくて素晴らしいです。学生さん達の誰もが、このプロジェクトを成功させたい! という気持ちでいてくれたのがうれしかったです。この成功は皆さんの協力があってこそです! ご協力ありがとうございました。



千人のこどもたちと別府ばやしを踊り隊 隊長 (写真右) 東保 美紀さん 副隊長 (写真左) 荒金 さなえさん

盛り上げ

市制 100 周年 PROJECT

実 | 施 | 中 | !

盛り上げ PROJECT 04

市制100周年記念事業プレ事業「シン・別府学講座」で中山教授が講演



これからの100年について語り合いました

観光都市別府の経緯と未来を語るセミナー開催

2023年12月23日、本学メディアホールで「第25回別府大学文化財セミナー観光都市別府ここまでの百年、ここからの100年~市制百年を迎えるにあたり~」を開催しました。セミナーでは、別府市が市制100年を迎えるにあたり「ここまでの百年」と称して、別府が観光都市として大躍進を遂げた経緯を振り返りました。本学の中山昭則教授が「観光都市別府、百年の物語と未来」と

題した基調講演を行い、続いて飯沼賢司名誉教授が市史編纂の報告を行いました。後半の座談会では大分県教育庁文化課の櫻井成昭氏にもご登壇いただき、観光都市別府のここからの100年に向けて、今後の社会情勢を見極めた討議が行われました。



文化財セミナーチラシ



講演中の中山先生



2023年11月19日、市役所レセプションホールにて、本学国際経営学科の中山昭則教授が「どうした、そしてどうなる別府!! ~戦後の発展~」と題して講演をしました。

盛り上げ PROJECT 02

「湯ぶっかけまつり」で別大生の本領発揮!!

別府八湯温泉まつりのフィナーレを飾る「湯ぶっかけまつり」。別府駅前通りが歩行者天国となり、神輿が練り歩中、神輿衆や観客に温泉が容赦なく撒き散られ、びしょ濡れになりながら、温泉の恵みを体感するイベントです。今年は、市制

100周年と第110回を記念して、史上最高の210トンの温泉がかけられました。別府大学でも附属の明豊高校生と共同で神輿に参加。学生たちは、大量の温泉を浴びながら、別府ならではの強烈な体験を楽しんでいました。



四方八方からお湯がぶっかけられ、まつりは最高潮へ

別府大学と明豊高校の合同で神輿に参加

今回は史上最高の210トンの温泉をぶちまけました。数千人の若者たちが駅前通りに集い、びしょ濡れになりながら、歓喜の輪ができました。「来てよかった、サイコー、明日からの元気をもらいました」と多くの声をいただき、うれしかったです。別大生のみなさん、卒業しても別府に帰ってきてな! 待ってるよ!!!!



別府八湯温泉まつり実行委員長 権藤 和雄 さん



石垣祭

前夜祭のグラウンドで火を囲んで歌って踊ったファイヤーストーム



大学祭

第49回(1994年)まで実施された仮装パレード
仮装した学生が別府の町を練り歩いていました



石垣祭

学祭の定番ミス・ミスターコンテスト



石垣祭

音楽系サークルによるライブは毎回大盛り上がり!

石垣祭から繚垣祭へ

歴史と想いを紡ぐ

本学の学園祭は、今年度から「繚垣祭」と名前を新たに開催されます。この繚垣祭という名前には、これまで別府大学を彩ってきた「石垣祭」と「さつき祭」を1つに結び、新たな歴史の幕開けとなる学園祭を、結実させたいという実行委員の思いと「学校行事の枠組み、垣根を越えて、地域の方々に愛される学園祭になりますように!」という願いが込められています。

本学初の学園祭は、本学の前身である別府女学院時代の1946年に開催された「クリスマス文化祭」でした。全校生徒120名が参加し、歌や踊り、手芸バザーなど多くのプログラムが実施され大いに盛り上がりを見せました。その後「学園祭」や「大学祭」、第34回(1979年)からは「石垣祭」へと名前を変えながらも学校・学生そして地域が協同して開催され、その伝統を受け継いできました。

しかし、2020年頃から猛威を振るった新型コロナウイルスの影響で、「石垣祭」も開催中止に追い込まれました。また、この数年で学生間の縦・横のつながりは希薄になり、引き継ぐことのできなかった伝統やノウハウなど、大学は多くのものを失いました。ついには、41回の歴史を重ねたさつき祭も昨年度の実施をもって廃止せざるを得なくなりました。



繚垣祭実行委員のみなさん

は石垣祭もさつき祭も別府大学の大切な行事だと考えています。このままでは、さつき祭の歴史や魂が無くなってしまふように感じました。なので、今回、繚垣祭という新しい名前を付け、どちらの祭りの伝統も想いも踏襲した学園祭を作り上げていきたいと思います」と話してくれました。



さつき祭

実行委員の後ろ姿が表紙の定番だったパンフレット



石垣祭

沖縄県人会(現:沖縄エイサー団)によるエイサーの演舞



さつき祭

別大で一番のおしゃれを決めるさつきコレクション

今回の繚垣祭はコロナ禍前の熱量を取り戻すだけでなく、よりパワーアップした学園祭を作りたいと思います。また、地域の方にも別府大学と学生がコロナ禍を乗り越えたというのを見ていただく場にしたいと思っています。

定番の企画やライブに加えて、来場者参加型の企画や学生による出店、キッチンカーの数も昨年より増やして皆さまのご来場をお待ちしています。スペシャルゲストも来場予定です。ぜひ会場にお越しいただき、繚垣祭と一緒に楽しんで盛り上げていただけると幸いです。



第79回繚垣祭実行委員長 盛武 宥太さん (史学・文化財学科3年)

09 Be-News

★別府の100年後の別府に向けて 推しを未来に残そう!

温泉も、人柄も、ほっこり

なじみのお店の店員さんと交わす温かみのある会話にほっこりします

文学部 史学・文化財学科 3年 甲斐 直樹さん

地元感たっぷりの商店街など、別府人でなくともすぐに馴染みますよ

国際経営学部 国際経営学科 3年 井上 登志生さん

ウマイもんだらけの別府

何を食べても美味しいので太り過ぎないように注意(笑)

文学部 史学・文化財学科 2年 中川 雅生さん

教室から見える別府湾の美しさは何度見ても素敵です

食物栄養科学部 食物栄養学科 2年 齊藤 小春さん

海にも、山にも、ありのままの自然が身近にあります

文学部 史学・文化財学科 3年 武市 勇成さん

なんと 言っても 温泉でしょ!!

あちこちに立ち昇る湯けむりに驚く友人を見て、こっそりほくそ笑みみす

文学部 人間関係学科 4年 阿部 紗弓さん

新しい才能と出会えるしあわせ

別府は素敵を育むまち! ヒライマサヤさんの曲と出会えてハッピー!

文学部 人間関係学科 2年 是永 野々花さん

絶景の呼吸、亀ノ型!

漫画「鬼滅の刃」の聖地で人気の亀川・電門神社からの別府湾の眺めは未来に誇れます

国際経営学部 国際経営学科 3年 山本 亮太さん

心が通いあう福祉のまち

別府で暮らしているとバリアフリーの精神が根づいているまじだ実感します

文学部 人間関係学科 2年 北村 征斗さん

心と心が通いあう福祉のまち

海がきれい

海と山は 国産風景

人があたたかい

レトロな商店街

レトロな商店街

市制100周年を迎えた別府市で学んでいる別大生に「未来に残したい別府の魅力」をテーマに声を集めてみました。別大生が感じる別府の「推し」にはどんなものがあるでしょう。

国際言語・文化学科

No 01

大分の方言と文化を『野津原方言集』と共に残す

YouTubeで方言動画も発信中!

『野津原方言集』は、大分市野津原地域(旧大分郡野津原町)の方言で書かれた、1995年から現在まで全部で36巻の方言集です。方言単語だけでなく、かつての人々の暮らしや喜怒哀楽が方言語りで書かれています。この発刊に取り組んでいる野津原方言調査会(会長:小野寿祐氏)と国際言語・文化学科の学生たちが、2020年度から方言研究を通じた交流を始めました。4年間、PDF原稿とOCR読み取り原稿を見比べて本文をテキストデータにする「電子化」作業

や、本文から感動詞やオノマトペを抜き出す「データベース化」作業や、Zoomや対面で学生と調査会との質問応答、方言アピール提案へのコメント、方言朗読などで交流を深めています。今年も7月18日(木)に大分市野津原支所



対面でも交流を深めています!

と本学をオンラインで繋いで5年目の交流会を実施しました。

また、2022年から、調査会と学生の朗読を「のつはるのことは1~4」としてYoutubeにアップしています。

今後も野津原調査会との交流を深めながら、方言を未来へ繋ぐ活動を行っていきます。

史学・文化財学科

No 02

湯のまち学びのカレッジ2024

別府の古代ロマン 鬼ノ岩屋古墳見学

別府市では、市民に生活や地域の課題解決に向けた学習機会を提供し、活力ある地域づくりを目指すことを目的に「湯のまち学びのカレッジ」が毎年開催されています。今年も市内各地の公民館で様々な講座が行われています。この取り組みの一環として、2024年6月22日(土)、本学史学・文化財学科の玉川剛准教授が「別府の古代ロマン 鬼ノ岩屋古墳見学」と題して講座を実施しました。

鬼ノ岩屋古墳は2017年「鬼ノ岩屋・実相寺古墳群」として、国指定史跡に

指定され、史学・文化財学科は、これらの古墳群の調査に長く関わっています。

当日は10代から80代まで幅広い年齢層の参加者24名が受講し、描かれている模様やその種類などについて解説

を受けました。また、今回は実際に鬼ノ岩屋古墳の中に入る見学会も行われ、参加者からは「古墳の中に入ることができて感動した」「内容が分かりやすく、さらに鬼ノ岩屋に興味を沸かした」などの感想が寄せられました。

今回の講座が、地域の魅力発信や課題解決の一助となれば幸いです。



実際に古墳内に描かれている文様を観察



文様にも様々なパターンがあります

No 03

人間関係学科

ユニークなアイデアの宝庫

発表を行います。発表した4年生は、緊張しながらも自分自身の研究をプレゼンして、参加者(教員と人間関係学科の学生)からの質問や示唆のあるコメントに対して、応答したりディスカッションしたりして、卒業論文の完成への糧とします。参加者も多様な研究発表に触れることによって、4年生になった時の卒業論文の作成方法や研究の進め方などを学べます。人間関係学科の卒業論文は、学生のユニークなアイデアの宝庫です。今回のタイトルも疾患、スポーツ、趣味、人格、対人援助、人間について、SNSなどバラエティ豊かで、参加者がワクワクした研究発表会で非常に活気がありました。

活発なディスカッションが行われました



パーソナルカラーと他者意識の関係は~

卒業論文中間発表会

人間関係学科は、卒業の到達目標として、卒業論文を設定しています。3年ゼミで、論文抄読、現場の実践体験、研究テーマ設定や方法論を学び、4年ゼミで教員とゼミ生とディスカッションしながら書き上げます。中間発表会は、卒業論文完成のためのプロセスの一環として、全員がポスター

ようこそ別府へ!!



No 04

「36 ぶらす3」特別貸切ツアーおもてなしイベント

2024年5月29日(水)、JR別府駅ホームにおいて、福岡・大分デスティネーションキャンペーン特別企画「36プラス3」特別貸切ツアー参加の観光客をお出迎えするイベントが実施されました。

JR九州の観光列車「36プラス3」は、世界で36番目に大きい島である九州を巡る列車で、「驚き、感動、幸せ」または「お客さま、地域の皆さま、私たち」の3要素を加えて、ひとつになって、39(サンキュー!)=「感謝」

の輪を広げていくという素晴らしいコンセプトがあります。

国際経営学科観光・地域経営コースの小野ゼミ(3年)15名の学生が、おもてなし側としてイベントに参加し、明豊高校地域盛り上げ隊と共に法被を着用して小旗や横断幕を持ち賑やかなお出迎えを行いました。

学生たちは、実際の現場経験を通じて、もてなし側のホスピタリティについて学びを深める大変貴重な機会となりました。また今後の大学生活や社会人になっても、この36+3=39の数式を実践して欲しいです。

国際経営学科
福岡・大分デスティネーション
キャンペーン特別企画

「大分トリニータカレーコンテスト2024」で最優秀賞!

トマトの甘酸っぱい香りが食欲をそそる「トメイトゥーカレー」

2024年7月14日(日)、レゾナックドーム大分(大分市)で開催された「大分トリニータカレーコンテスト2024」で食物栄養科の衛藤ゼミ(チーム名:もぐもぐハッピーサークル)が出品した「トメイトゥーカレー」が最優秀賞に選ばれました。今年が初の開催となったこのコンテストには県内の調理師を目指す高校生や栄養士を目指す大学生が出品しており、最優秀賞作品は大分トリニータのレトルトカレーとして商品化される予定です。当日は、一次審査を通過した7作品が試合を観戦に来た来場者に振舞わ

れ、試食投票が行われました。あいにくの天気でしたが、多くの来場者が各種オリジナルカレーを試食していました。短大食物栄養科の学生たちが考案した



スタジアムでも大人気でした

カレーは、トマトの甘酸っぱい香りと県産鶏の旨味、そして県産ピーマンの苦味が隠し味となり、子どもから大人まで幅広い層から高評価を得ることができました。

今後、商品化やレトルトカレー発売に向けてさらに活動の幅が広がりそうです。

最優秀賞の「トメイトゥーカレー」今秋に商品化決定!!



「びじゅつってすげえ!~身体と感覚、そして情報と体感~」

令和6年度 児童学会講演会

2024年6月26日(2年生)、7月3日(1年生)に榎本寿紀先生(大分県立美術館学芸企画課教育普及室室長)をお招きして、本学3号館ホールにて児童学会講演会を開催しました。

今回の講演会は「びじゅつってすげえ!~身体と感覚、そして情報と体感~」と題して、演習形式で行われました。最初に榎本先生が美術館で取り組まれている美術ワークショップや子どもと美術館を楽しむ方法、子どもの鑑賞活動について講演していただきました。

その後書道用の半紙を使ったワーク

ショップでは、細長く千切った半紙や紙吹雪を、みんなで気持ちを合わせながらうちわでパタパタと仰ぐと、半紙が竜のように宙を舞いました。半紙一枚から紙の表情や素材感、意外な楽し



上手にちぎれました

み方を知ることができました。

最後の大きな丸布を使ったワークショップでは、雲やドームのような形に変化する巨大な布の姿に歓声が上がりました。身近なものから、新たな視点や発想に気付かされたアートな時間となりました。



風に乗って半紙が竜のように!

色の変化を見てみよう

どんな香りがするかな?



2024年6月22日、別府大学にて公開講座「理科実験教室」を開催しました。小学生と保護者7組15名が参加し、紫キャベツなどの食品や飲料水から抽出したアントシアニン色素に、重曹などの食品添加物を加えて、色の変化に関する実験を行いました。

アントシアニン色素は、中性で紫色を、



豊水

幸水

新高

酸性で赤色を、アルカリ性で青色を示します。この性質を利用して、製氷皿に入れたアントシアニン色素を含む6種類の液体に、レモン汁(酸性)や重曹(アルカリ性)などの食品添加物を加えて様々な色の液体を作りました。次に、食品添加物の液体に浸した綿棒を使って、アントシアニン色素を含むぶどうジュースで染めた画用紙にイラストや文字を描きました。「酸性」や「アルカリ性」という性質の違いによる色の変化を体験して、その理由も学びました。

本学初めての試みであった「理科実験教室」ですが、今後も親子で理科に興味を持ってもらうことを目的に、楽しい実験を企画していきます。

初開催! 公開講座「理科実験教室」

食物栄養学科



色が変わっていく様子に興味津々

品種で色にも違いがでます

剪定された葉の有効利用

梨の葉でお茶をつくらう!

発酵食品学科

由布市庄内町は大分県有数の梨の産地です。生産者の高齢化が進み生産農家の減少、シーズンオフの売上減少、摘果果実の廃棄、剪定した枝葉の処理などが、地域の課題として挙げられています。このうち生産者の高齢化については庄内梨園流動化および新規就農受入れが実施され、摘果果実の廃棄では加工品の開発、枝葉処理では飼料への利用などが対策として実施されています。発酵食品学科では、梨を好き

な学生が、シーズンオフの売上減少と選定した枝葉の処理の2つの課題に着目し、梨の葉を原料とした商品(お茶)の製造を目標として卒業論文の研究を行っています。3品種の梨(幸水、豊水、新高)の葉でお茶をつくと、それぞれ色合いや味に違いがありました。梨の葉にはポリフェノールが豊富であるため、不要となっている葉を原料としてお茶の製造を行うことで、葉の新規な有効利用とシーズンオフにも販売可能な商品が期待できます。また機能性成分について分析を行い、商品の付加価値を高めたいと日々頑張っています。



いろいろなアントシアニン色素

Closeup! 別大生

クローズアップ

進学のきっかけや 幼稚園教諭を目指した 理由を教えてください

母親が幼稚園の先生だったので、その影響が強いですね。私自身、小さい頃から子どもが好きで、小さいとこのお話をするのが楽しみでした。子どもが笑ってくれるのが嬉しいんです。本学を志望したのは、ピアノの台数が多く、母の同期の方からよい評判を聞いていたからです。また、就職率も高く大分県内の学校だったというのも理由の一つです。

パネルシアターの研究会 「保育のたまて箱ピコロ」 について聞かせてください

研究会のリーダーを務めています。パネルシアターとは、ボードに絵を貼る、外す、動かすなどしながら、物語やゲーム、歌遊びを見せるものです。「子どもたちの前でやったらどんな反応をするんだろう?」と気になり、自分もやりたいと思い研究会に入りました。園児に披露すると、一緒に歌うなど反応してくれて、とても嬉しいですね。



いつも一緒に行動する
仲良し8人組



細かい動きで楽しませる
「パネルシアター」

出典:「おはようクレヨン」(壁面飾り工房)

短期大学部
初等教育科 2年生
伊東 蒼生 さん
(大分西高等学校出身)

学生生活で変化したこと、 成長を実感することは ありますか?

幼稚園の先生になりたいのに、人前に出るのが苦手でした。でも授業や研究会で大勢の前に立ち、出し物をするなど場数をこなすうちに、人前でも大きな声で話せるようになったんです。慣れるしかありませんね。また、短大は親しみやすい先生が多く、気軽に話しかけてくださるので、質問もしやすく、学ぶ機会がたくさんあります。

進学を考えている人に 伝えたいことは ありますか?

入学してから、いつも一緒にいる仲良し8人組がいます。空き時間にみんなでゲームをしたり、話したり、ごはんを食べたり。辛いことや大変なこと、面倒だなと思うときも、みんなで「終わったらアイス食べよ!」なんて言い合い乗り越えています。この先ずっと付き合える友だちに出会えるし、先生も親しみやすくサポートしてくれる学校です。

人前に出られる自信と
一生の友人を得られました

文学部
国際言語・文化学科
英語英米文学コース
3年生
菅原 みなみ さん
(大分鶴崎高等学校出身)

英語学習に熱心ですが 独自の勉強法はありますか?

TOEICや英検の単語帳を繰り返すことですね。間違いをチェックする→覚える→またチェックするの繰り返しです。数を多くこなすことが、一番覚えられます。単語帳はポロポロですよ(笑)。他にはパソコンで英文を作ったり、電子書籍で参考書を読んだり。試験前は、同じ授業の友人と集まり、教え合いながら勉強しています。

卒業までにやりたいことや 今後の目標を教えてください

卒業までにはTOEIC700点と、英検の準1級を目指しています。元々は教員を目指して本学に入学しました。中高卓球部で部活が大好きだったので、部活の顧問になりたかったんです。企業説明会で話を聞くうち、一般企業で働きたいと気持ちが動き、今は映像編集の仕事を目指しています。おもしろい番組を作る人になりたいです。

先輩・後輩・国の垣根を超え
交友関係を広める大学生活

フィリピンに私費留学した 経緯や滞在の様子は?

知り合いからセブ島に留学した話を聞いて興味を持ち、費用も安いので、春休みに留学しました。日本人の学生や同年代が多く、楽しかったです。最初の1~2週間は、英語だけの説明に付いていけず大変でしたが、後半はだいたい理解できるようになりました。マンゴーシェイクを毎日のように飲んでいたので、今でもあの味が恋しいです!

力を入れている 「SIPS」とは? どんな活動をしていますか

「SIPS(シップス)」は学内の留学機運を高めるプラットフォーム事業です。本学では、週に1回、空き教室でイングリッシュカフェを開催。ゲームやクイズなどを楽しみながら、英語に興味を持ってもらう場を作っています。活動を通じて、これまで接点のなかった先輩後輩や留学生などとの交流が増え、交友関係が大きく広がりました。



フィリピン留学中に
ハマったマンゴーシェイク



長期休暇は友人を訪ねて
国内旅行に行くことも





モルック愛好会

サークル



BETUDAI_MOLKKY
モルック愛好会Instagram

モルック愛好会 部長
文学部
史学・文化財学科 3年
松田 祥真



学生からのおひきこ

モルック愛好会は毎週土曜日の13時～15時まで大学の中庭で活動しています。モルックは子どもからお年寄りまで幅広い年齢層で楽しめるスポーツです。簡単なルールですぐに楽しめるので、興味のある方はぜひインスタのDMまでご連絡ください！飛び入り参加も大歓迎です

モルックとは木の棒を投げて点数の書かれたピンを倒し、先に50点を目指すフィンランド生まれのスポーツです。最近ではテレビ番組やSNS等でも取り上げられることが増え、日本でも徐々に人気が高まりつつあります。そんなモルックの魅力を伝えるために活動しているのがモルック愛好会です。競技の魅力を部長の松田祥真さんに聞いてみると「投げた棒や倒れるピンの動きが予想できない分、自分たちの立てた作戦通りに試合をすることが出来たときには達成感を感じます！」と話してくれました。

世界大会も開催されているモルック。松田さんに今後の目標を聞くと「今のところのサークルの目標として、大会で上位入賞したいです。また、本当に楽しい競技なので、モルックの魅力を多くの学生に知って貰いたいです」と笑顔で答えてくれました。



シンプルルールに奥深い戦術

学びのトビラ

研究室訪問

Vol.21

別府大学の学びの最先端をレポートします。

プロフィール

1970年愛知県生まれ。4歳から別府大学着任までは福岡市。両親は関西出身なので、プライベートで話すときは博多弁と関西弁が混ざっています。九州大学大学院農学研究院農芸化学専攻修了、博士(農学)。企業、研究所、大学で、環境汚染物質分解菌、ノロウイルス、植物、植物細胞、酵母などの研究を行ってきた。2017年より別府大学食物栄養学部発酵食品学科学准教授として着任。2020年から教授。



育てているイチゴです。かわいい芽が出てきてます。



食物栄養学部 発酵食品学 教授
陶山 明子
Akiko Suyama

発酵、微生物の力で人や環境に役立つものを生み出したい

専門はバイオテクノロジー

専門はバイオテクノロジーです。バイオテクノロジーとは生物の持つ能力を利用して、人間社会や環境保全に役立つものを作る技術のことです。

研究室では「微生物」「食品」「環境」の3つをキーワードにして、バイオテクノロジーに取り組んでいます。「食品」では、花からお酒の製造に適した「微生物(酵母)」を探索し新しい風味のお酒を作り出す研究や、食品の機能性を調べる研究や、「環境」では、環境汚染物質やプラスチックを分解する「微生物」の探索や、遺伝子組換えによって「微生物」の分解力を向上させるための研究を行っています。学生さんのやりたいこと、興味があることを卒業論文のテーマにしていますので、研究内容の幅が広いです。

地域との連携、異種分野との連携

地域との連携にも力を入れていきます。昨年度は「規格外果実利用促進のための果実酢の機能性の検討」を実施しました。びわの実から酢を製造している方から製造法や成分分析に関する問合せがあったため、学生と一緒に、製造法、製造する上で困っていること、測定を希望する成分などについてヒアリングを実施し、びわ酢の製造法を改良しました。その後大学で発酵を行い、数ヶ月後にびわ酢が完成しました。びわ酢およ

サークル紹介

学部、学科を超えた絆は、人生の宝物

学生からのおひきこ

BVNGOLET口散策会は毎週火曜日16時30分～18時まで210番教室で「ゆるく楽しく」をモットーに活動しています。甲冑を着てお祭りに参加できるのはこのサークルしかないので興味がある人はぜひインスタのDMまで！もちろん飛び入り参加も大歓迎です！



BVNGOLET_BEPPU_UNIVERSITY
BVNGOLET口散策会Instagram

BVNGOLET口散策会 部長
文学部
人間関係学科 2年
小澤 望有子



甲冑をまとい、いざ出陣！

2022年4月に結成された「BVNGOLET口散策会」。普段の活動は名前の通り、テーマを決めた県内の小旅行や教室でゲームをして部員同士の仲を深めています。甲冑を身に着けてお祭りに参加するのはこのサークルにまとい、武士として出陣しています。「歴史や和風ものが好きで、小さいころから府内紙戦の甲冑隊を見たので甲冑には憧れがありました」と入部理由を部長の小澤さんは笑顔で話してくれました。

お祭りによっては甲冑を着て歩く

ぶんご BVNGOLET口散策会

サークル



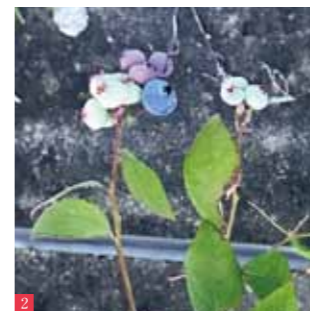
だけでなく、刀を抜いてポーズを取ったり、火縄銃を構えたりとこのサークルでなければ、できない体験が盛りだくさんです。部長の小澤さんは「地域のお祭りに大学生が甲冑を着て出るのが当たり前で、学内はもう珍らしいと思うので、学内はもう珍らしいです」と今後の活動の抱負を話してくれました。旅好きの方や甲冑を着てみたい方は一度BVNGOLET口散策会を覗いてみてはいかがでしょうか？

び比較対象としてりんご酢、ぶどう酢、たまねぎ酢、米酢を用いて、4項目の実験(味認識装置による味の数値化、官能試験、有機酸含量、機能性試験)抗酸化活性、血圧上昇抑制効果を行い、びわ酢は他の酢に比べ、酸味が少ないため飲みやすく、機能性も高いことがわかりました。商品展開できるとよいと考えています。今年度は、梨の葉を利用したお茶づくりに取り組んでいます。また、高次大連携や小学生への実験講座にも積極的に取り組んでいます。高校生とは、食品や微生物関連の課題研究のアドバイスや実験協力、出前講義、出前実験(光る大腸菌を作ろう)などの微生物や遺伝子を使った実験)を実施しています。小中学生へは化学の実験を楽しんでもらえるように「体験型子ども科学館O・Labo」に講師として協力しています。

自分が興味を持ったことを

私は別府大学の教員になるまでに、企業、独立行政法人の研究所、大学といろいろなところで研究を行ってきました。研究内容も微生物

～ Other sides of Akiko Suyama ～



1 愛犬です！大きいけどチワワです 2 植物を育てるのが好きです。研究室でブルーベリーとイチゴを育てています 3 趣味は読書です。ミステリー、SFを中心に読んでいます

物、ウイルス、植物とさまざまです。全く違う分野の研究が役立つこともあるなと思います。学生さんにはいろいろなことと興味を持って取り組んでほしいと思います。自分が興味を持ったことに楽しんで取り組んでいくてください。

母

方の祖父と、伯父が“酒造りの技術職人集団”といわれる「杜氏」だったことを知り、自分も将来は酒造りに関わりたいと考えるようになりました。別府大学の発酵食品学科は、有名な酒蔵への就職実績が多数あり、研究設備も充実しているので、進学を決めました。

在学中でもっとも思い出深いのがセレクトショップ・BEAMSと別府市のコラボ企画で開発した別府の新しいおみやげ「別府温泉水あまざけ」です。仕込み水に別府の温泉水を使った甘酒なのですが、飲用可能で甘酒に合う温泉水を探して、研究の末、県産米と国産麴のみを使った甘酒ができました。温泉の塩分によってまる

やかな甘味が特徴で、ノンアルコールなので飲みやすいと評判になりました。

卒業後は地元・鹿児島県の薩摩酒造に就職しました。第一次焼酎ブームで有名な本格芋焼酎「さつま白波」の製造元ですが、今は芋だけでなく麦、米、蕎麦などの本格焼酎のほか、発泡酒やリキュールまで造っています。私は入社後、焼酎と発泡酒の製造を経て、今は枕崎にある「火の神蒸溜所」



塩屋幸樹研究室で開発に取り組んだ「別府温泉水あまざけ」。(写真右から2番目が道下さん)

でグリーンウイスキーの製造・品質管理に携わっており、大学で学んだ知見が役立っています。既にモルトウイスキーは製造を開始しているのですが、原料となる穀物の仕入れから糖化、発酵、蒸留、熟成といった工程があるのですが、少なくとも熟成だけでも完成まで3年以上はかかります。世界に通用するウイスキーとなるよう、今から完成が楽しみです。



現在使用しているウイスキーの製造に欠かせない蒸留器の様子

J O B

薩摩酒造株式会社 火の神蒸溜所
ウイスキー製造

N A M E

道下 裕太さん

食物栄養学部 発酵食品学科
2021年3月卒業
(鹿児島県立鹿児島高校出身)



本格焼酎のパイオニアから
世界一のウイスキー造りを

卒業生インタビュー - こんにちは先輩!!

J O B

介護付き有料老人ホーム
愛の里サンヴィラ 栄養士

N A M E

川野 未来子さん

短期大学部食物栄養科
2023年3月卒業
(大分南高校出身)



美味しいお食事で、高齢者に「食べる喜び」を与えたい!

食

事がおいしいと評判の高齢者施設「愛の里 サンヴィラ」。お赤飯、手作りパン、ピザ、天ぷらなど、まるでレストランのように多彩で美味しいメニューが毎日提供されると評判の施設です。

約50人分の調理を交代で担当する一人が、栄養士の川野未来子さんです。食べることで子どもが好きだった川野さんは、「食」について学びながら教諭の資格取得が可能な本学へ進学。学生時代に栄養教諭と家庭科教諭2つの資格を取得しました。

「在学中は、こども食堂に野菜クッキーを配ったり、食育絵本を作って発表したり、郷土料理を作って動画を撮り出演したり、授業だけではできない経験をたくさんしました。先輩や後輩、

先生とも親しくなれ、人前で話す機会もあり、本当に貴重な時間でした」

今はどんなお仕事をされているのでしょうか。

「調理業務を担当しています。“食”に関心の高い利用者さんが多いので、勉強になります。『今日すごくおいしかったわ』など言葉をいただくと、やっぱり嬉しいですね。学生時代は『盛り付けにも心がけ、衛生面をきちんとする』と指導されても、つい聞き流していたのですが(苦笑)今はその大切さを実感しています」

調理の現場に携わるようになり、あらためて先生の言葉を噛みしめている

ようです。

「食物栄養科の先生は本当に素敵な先生が多く、今でも大好きです。優しい、親身になってくれる先生ばかり。授業だけの関わりではもったいない!」

今は管理栄養士の資格取得を目標としている川野さん。仕事に、学びに、毎日を大切に過ごしています。



在学中のウィンターフェスで、大型の絵本を作成し発表。「緊張したけど楽しい経験でした」

地域連携



浜脇薬師まつりで学生が活躍!!

別府市の東側に位置する浜脇地区で、毎年8月末に「浜脇薬師祭り」が開催されています。江戸時代から続く伝統あるお祭りで、浜脇温泉の恵みと薬師如来に感謝をささげるお祭りで、地域に欠かせない伝統的なイベントです。

以前は浜脇地区に、別府大学の寮があり、毎年学生がボランティアで参加していましたが、閉寮にともない、大学との縁がなくなっていました。しかし、昨年からボランティアが復活。

今年は、見立て細工の展示、花魁道中、お化け屋敷、エイサーの演舞、会場設営・撤収に学生が参加し、地域の方たちと一緒に、祭りを盛り上げました。

花魁道中に参加した藤田琉花さんは「たくさんの方が声をかけてくれて、とてもうれしかったです。別府のおまつりは温かいですね」と、感想を話してくれました。地域の方々と交流しながら、受け継がれてきた伝統行事に参加する、貴重な機会となりました。



艶やかな花魁道中



お化け屋敷チーム! うらめしや〜



ペットボトルを使った見立て細工「サマー・サバース」

由布市湯布院町地区で 災害ボランティア



家屋に流入した土砂を搬出する学生たち

令和6年8月22日に発生した台風10号(サンサン)は8月30日(金)に大分県に最接近、大雨と強風によって県内に甚大な被害をもたらしました。この度、由布市社会福祉協議会からの要請を受けて、別府大学では県内の被災地復興の一助を担うべく、9月4日(水)に被災者支援ボランティア(学生・教職員)を派遣しました。

今回のボランティアには学生有志15名と教職員3名の計18名が参加し、民家に流れ込んだ土砂の搬出を行いました。当日は、30度を超える暑さに加え、水を含んだ粘土質の土砂はかなりの重さでしたが学生たちは熱中症に注意しながら懸命に復旧作業に取り組みました。

被害に遭われたみなさまの一日も早い復興を願い、今後も支援活動に取り組んでいきたいと思ひます。

国際交流



モンペリエ第三大学との学術交流25周年

国際シンポジウム「地域総合研究と比較史の可能性—学術交流の新たな展開に向けて—」

別府大学とモンペリエ第三大学(ポール・ヴァレリー大学)の学術交流は1999年に始まり、今年で25周年を迎えます。そこで、2024年6月22日(土)、「地域総合研究と比較史の可能性—学術交流の新たな展開に向けて—」と題した国際シンポジウムを開催しました。モンペリエ第三大学からはアントワヌ・ベレス准教授とマルティヌ・アセナ准教授、別府大学からは飯沼賢司名誉教授と上野淳也教授、飯坂晃治教授、赤松秀亮専任講師が登壇しました。

別府大学とモンペリエ第三大学は近年、聖域・街道・地割の関係に注目し、古代日本の宇佐地域(宇佐神宮や中津の沖代条里など)と古代ローマ時代の南フランスを比較する研究を進めてきました。今回の国際シンポジウムでは、これまでの研究を振り返るとともに、新たな研究の方向性を探りました。今後の共同研究は、宇佐地域に加えて、国東半島にも視野をひろげ、古代から中世にかけての歴史的景観の変化(荘園の成立)などにも着目してゆくこととなります。

また、飯坂教授・赤松講師と、ベレス准教授・アセナ准教授とで、国東半島の六郷満山とその文化財や田染荘などの文化的景観を巡検し、モンペリエ第三大学の両先生に国東半島の歴史的価値の重要性を確認していただきました。別府大学とモンペリエ第三大学は今後も国際共同研究を押し進めて、大分の歴史的な価値を国内外に発信していきたいと思ひます。



左:アントワヌ・ベレス准教授、右:マルティヌ・アセナ准教授



和やかな雰囲気での、今後の共同研究について様々な意見がでました



学生や関係者に加え、多くの一般の方にもご来場いただきました

今年で祝50回! 「別府大学国際セミナー」



初等教育科学生との交流会。様々な方法で積極的に交流していました

今年も別府大学国際セミナーが実施され、2週間コース、3週間コース合わせて69名の受講生を迎えました。国際セミナーは1986年からはじまり、今回で50回目の節目を迎えます。(以前は夏期と冬期で年2回実施していたこともあります)これまで、中国、韓国、台湾、タイ、ロシアなどの国々から、約5,000人の受講生がセミナーに参加しています。

受講生は、鉄輪の温泉旅館に宿泊しながら、別科日本語課程での日本語授業の受講や茶道・華道・書道・浴衣などの日本文化体験、在学生や県内高校生との交流会、県内の史跡・名所巡りなどを行い、日本語を学ぶとともに日本文化の理解を深めました。



韓国・中国・台湾の3か国から、受講生を迎えました

Be-Museum



《魚図鑑》

亀田 虎太郎 (文学部 国際言語・文化学科 芸術表現コース 令和5年度卒業制作)

私にとって制作とは、自分が実際に体験して得たものを思いのままに描くことでした。

それに気付けた事で、魚への愛を再認識できました。

(油彩 F50号)